

## 整形外科 小児固形腫瘍診療についてのご意見

- 22 拠点化する病院決定に注意必要
- 23 治療の標準化が図れると考えるので
- 24 効率的であるから
- 25 Pro と考えていた自分たちですら小児科の Chemo には及ばないので
- 26 Chemo 中心のものは小児科とタイアップが望ましいと思います
- 27 入院する病院と自宅が遠距離になることは負担が大きい
- 28 センター化して症例数を増やすことで、医療レベルがアップするのではないのでしょうか
- 29 県内では唯一の施設であるため
- 30 通院距離があまり遠くなるのでは困ると思う
- 31 小児整形外科と骨軟部腫瘍は専門分野が異なり、整形外科内での集約が難しい
- 32 遠方になるため（集約されると）
- 33 専門分野の集約化が今後の治療に必要、多分野の専門的な集約治療を行う必要がある
- 34 効率的な治療
- 35 多岐にわたる集学的診療や看護が必要であるため、集約化が望ましい
- 36 下手な Chemo をする病院が多少あるので
- 37 症例が少ないため
- 38 希少疾患は集約して治療、研究すべき
- 39 専門化に寄るレベルアップのため
- 40
  - 集約化した方がより専門的で高度な治療が行える
  - 医療事故（薬の種類や量の間違え）も減ると考えられる
- 41 拠点地域の広さ・交通事情・緩和医療制度の整備状況などを配慮する必要があると思います
- 42 沖縄県の場合は大学に集約している

脳神経外科 (送付：200施設、回答：124施設 回収率：62.0%)

(施設数)

			1	2	3	4	5	6	その他	小計	無回答	総合計
1. 施設について												
1	がん診療連携拠点病院の指定	1: 国指定都道府県拠点 2: 国指定地域拠点 3: 都道府県指定拠点 4: いずれでもない	29	35	25	17	0	0	0	106	18	124
2	総病床数をお答えください	1: 300未満 2: 300-499 3: 500-999 4: 1000以上	9	20	79	16	0	0	0	124	0	124
3	DPC病院ですか。		111	12	0	0	0	0	0	123	1	124
4	電子カルテを導入していますか。	1: はい 2: いいえ	97	27	0	0	0	0	0	124	0	124
5	医療機能評価を受審していますか。		113	10	0	0	0	0	0	123	1	124
2. 小児脳腫瘍腫瘍診療実績について (小児とは20歳以下の思春期、若年成人も含みます)												
1	脳外科で診療した過去5年間の新規症例(再発も含みますが、延べ数ではありません)の概数をお答えください。	1: 0 2: 1-5 3: 6-10 4: 11-15 5: 16-20 6: >20	32	66	19	5	1	1	0	124	0	124
a	髄芽腫/PNET		24	65	23	6	2	4	0	124	0	124
b	胚細胞腫瘍		16	60	22	13	5	8	0	124	0	124
c	星細胞系腫瘍(視神経腫を除く)		65	49	6	0	3	0	0	123	1	124
d	視神経腫		40	58	19	4	1	1	0	123	1	124
e	頭蓋咽頭腫		38	67	16	0	1	1	0	123	1	124
f	上衣腫(退形成も含む)		20	64	20	4	4	9	0	121	3	124
g	その他の脳腫瘍		10	24	13	15	12	44	0	118	6	124
h	以上の小児脳腫瘍の合計数											
3. 診療体制について												
問い1が「いいえ」の場合は「4. 小児脳腫瘍診療の今後の予定」まで進んで下さい。												
1	小児脳腫瘍の診療を行っていますか。	1: はい 2: いいえ	111	13	0	0	0	0	0	124	0	124
2	小児を専門に診療する診療科として独立していますか?		24	89	0	0	0	0	0	113	11	124
3	脳腫瘍を専門的に診療する脳外科医の人数をお答えください。	名	9	20	21	16	19	6	20	111	13	124
4	化学療法はどの診療科が行っていますか。	1: 脳外科 2: 小児科 3: 両方 4: どちらも行っていない	23	32	53	5	0	0	0	113	11	124
5	診療科の有無についてお答えください。	1: 診療科としてある 2: 診療科ではないが専門診療可能 3: 診療体制はない	18	68	28	0	0	0	0	114	10	124
a	小児腫瘍科		65	35	14	0	0	0	0	114	10	124
b	小児外科		74	35	5	0	0	0	0	114	10	124
c	放射線治療科											
6	小児の放射線治療は可能ですか	1: はい 2: いいえ	109	5	0	0	0	0	0	114	10	124
7	保有する照射装置はどれですか(複数回答あり)	1: リニアック 2: トモセラピー 3: IMRT 4: ガンマナイフ 5: サイバーナイフ 6: なし	104	0	0	0	0	0	0	104	20	124
			0	4	0	0	0	0	0	4	120	124
			0	0	44	0	0	0	0	44	80	124
			0	0	0	7	0	0	0	7	117	124
			0	0	0	0	5	0	0	5	119	124
			0	0	0	0	0	3	0	3	121	124
8	小児のIMRTは可能ですか		44	68	0	0	0	0	0	112	12	124
9	小児の定位照射は可能ですか	1: はい 2: いいえ	60	54	0	0	0	0	0	114	10	124
10	集学的診療体制で診療が行われていますか。(小児科、内科、放射線科と診療連携が行われている)		100	9	0	0	0	0	0	109	15	124
11	小児脳腫瘍を対象にした関連科複数科にまたがるカンファレンス	1: あり 2: なし	51	59	0	0	0	0	0	110	14	124
12	専従病理医(病理全般)はいますか。	1: いる 2: いない	104	7	0	0	0	0	0	111	13	124
13	放射線治療専門医	1: 専従 2: 診断と兼務 3: 非常勤	85	11	15	0	0	0	0	111	13	124
14	長期フォローアップを行っていますか。	1: はい 2: いいえ 3: 小児科が行っている	99	3	9	0	0	0	0	111	13	124
15	がん登録											
a	院内がん登録		87	22	0	0	0	0	0	109	15	124
b	地域がん登録		69	38	0	0	0	0	0	107	17	124
c	脳腫瘍全国集計	1: はい 2: いいえ	87	25	0	0	0	0	0	112	12	124
d	小児がん学会登録		41	65	0	0	0	0	0	106	18	124
e	全国小児がん登録		37	67	0	0	0	0	0	104	20	124
4. 小児脳腫瘍診療の今後の予定について												
1	今後積極的に症例を増やしていきたい。	1: はい 2: いいえ	81	35	0	0	0	0	0	116	8	124
2	現状維持でよい。		45	56	0	0	0	0	0	101	23	124
3	今後、取り扱いをやめたい/取り扱う予定はない。		10	85	0	0	0	0	0	95	29	124
4	上記のその理由		別紙に回答あり									
5. 小児固形腫瘍診療の今後の診療体制について												
1	現在、厚生労働省のがん対策推進協議会や日本小児がん学会では、小児がん患者を拠点病院に集約化する方向性にありますが、集約化には賛成でしょうか。	1: 賛成 2: 反対 3: どちらとも言えない	90	2	27	0	0	0	0	119	5	124
2	上記のその理由		別紙に回答あり									

## 脳神経外科 小児固形腫瘍診療についてのご意見

### 問4-4. 小児脳腫瘍診療の今後の予定について

今後、取り扱いをやめたい／取り扱う予定はない理由

- 1 • これまでも県内の小児脳腫瘍の治療に携わっており、地域性を考慮して治療にあたってきた  
• 今後は中央の拠点病院ともより連携を緊密にして地域における役割を果たしたいと考えている
- 2 手術は緊急性を要するため他院へ紹介することは困難なことが多いが、DT・化学療法は専門施設に集中させた方がよい
- 3 治療設備なし、専門医不在のため
- 4 小児の術後管理体制が不十分
- 5 拠点病院として得られる経験を今後の診療に還元していく治験等行っていく
- 6 小児科との連携を強め、専従 STAFF を拡充できれば拡大化したい
- 7 化学療法を行う人数が医師のマンパワー的問題で制限がある
- 8 こども病変の負担軽減、腫瘍治療の治療成績改善
- 9 当センターでは小児および化学療法の専門家が不在です。千葉大病院・千葉県こども病院または千葉県がんセンターへ転送しています
- 10 陽子線施設を持ち、小児腫瘍医・小児神経外科医が常勤であり、優れたチーム体制を確立しているため
- 11 小児専門病院のため
- 12 当施設周囲に小児脳腫瘍を診られる施設は少ないため
- 13 地域の拠点病院として症例を増やしたい
- 14 主に地域完結型であるので
- 15 長野県では小児脳腫瘍は主に長野県立こども病院で治療を行っているが、各症例について互いに情報を共有し治療方針について検討している
- 16 県下で小児脳腫瘍の集学的治療が可能な施設である
- 17 マンパワーの問題があり現状でよい
- 18 診療能力がある以上治療に携わるのは義務
- 19 がんセンターで外科手術の多い施設であり、成人例がほとんどのため小児腫瘍が増えない
- 20 小児専門の病院として院内にあらゆる治療科方法がそろっているため、症例を集約すべき
- 21 拠点病院、センター化した方がよい
- 22 当院は比較的脳腫瘍を専門としているため
- 23 積極的に治療したいが、血液腫瘍の専門医不在・放射線治療装置なし・手術枠不足のため困難と考えている
- 24 脳腫瘍の診療を充実していきたい、定位照射も全身麻酔で可能である
- 25 症例数が増加するならそれに応じて対応していきます
- 26 大学病院として小児脳腫瘍治療を積極的に行う責務がある
- 27 術前後で小児科の協力が得られにくいいため、今後症例を増やしてゆきたい（転勤後3年のため）
- 28 大都市の専門施設へ希望される方は、積極的に紹介しています。当地で希望される方のみ当方で治療しています
- 29 県内での交通立地として中心に位置しており相談しやすい場所にある
- 30 小児脳腫瘍患者の拠点病院にするため

## 脳神経外科 小児固形腫瘍診療についてのご意見

- 31 年間症例が非常に少ない。小児科腫瘍専門医が退職
- 32 小児科の協力体制を得られない
- 33 がん診療連携拠点病院のため
- 34 問4-1. 2の質問がよく分からない
- 35 症例が少ない
- 36 小児脳腫瘍診療は大学病院などの高度医療を行うことができる施設に集約化すべきだと考えます
- 37 現状で手一杯の感がある
- 38 小児科が休診となっており今後も再開する目処なく、実施は困難と思います
- 39 県内をカバーする場合発生数は一定と思われるため
- 40 基幹病院としての使命

### 問5-2. 小児固形腫瘍診療の今後の診療体制について

#### 小児がん患者を拠点病院に集約化に賛成理由

- 1 北海道立子ども総合医療・療育センターと連携していますので、小児脳腫瘍の診療を当院またはこの子ども医療センターへ集約するようにしています
- 2 医療機関のカバーするエリアが広すぎるため
- 3
  - 各施設の症例数が少ないことから基本的に賛成であるが、就学期の児童などを考慮すると集約化する範囲・地域性も大きな要素と考えられる
  - follow-up も含めると地域の基幹病院との連携・役割分担も重要と思われる
- 4 問4-4の通り治療プロトコール・データは、拠点病院に集約すべき
- 5 一般的には賛成、福島は広く（医師が少ないが）単純に集約化は難しい
- 6 患児・家族の移動
- 7 症例総数が少なく少子化傾向であり、術後管理も専門性が高いため
- 8 脳腫瘍は体幹部癌とは分けるべき
- 9 小規模病院ではfollow up 中心の対応とし専門治療はcenter 化して行うことが、quality assurance の面からも国策としてまた患者への利益として望ましい
- 10 質の高い専門医療を提供するためにはセンター化が必要
- 11 集約化のメリットは理解できるが、全く取り扱わない病院ばかりでは結局患者が困るから（乳幼児は別）
- 12 小児脳腫瘍は多くが手術のみならず強力な療法を必要とするため、おのずとそれを実施できる施設には限りがありすでに集約化されつつあるため
- 13 小児・腫瘍医の不足、特に化療時
- 14 手術時の小児麻酔の問題など、腫瘍周辺のことだけでは解決しない問題も多くある現状をよく考慮して頂きたい
- 15 脳神経外科のある意味での特殊領域は集約化する必要があると思います
- 16 質の担保のために必要
- 17 治療方針の統一性は必要だが、治療を受ける患者側の利便性も考える必要あり
- 18 集約化というのが地域により事情は異なるのでうまく行くのかははっきりしないのではないかと

## 脳神経外科 小児固形腫瘍診療についてのご意見

- 19 少ない症例を分散して治療するよりも集約化して経験値を上げた方がよい
- 20 症例数が少ないため集約して専門医が治療した方が成績UPにつながるだろう
- 21 治療成績の向上がはかれると思われるが、医療機関が遠い場合かなり家族に負担がかかるのではないかと心配される
- 22 小児脳腫瘍は希少腫瘍であるため専門性を重視する必要があると考えます
- 23 集約化により医療資源が集中して投入できることは望ましく療養環境も向上できる。しかし、地方地域での拠点は必須、患者にとって中央化は困るのではないかと
- 24 複数科の共同による集学治療が必要だから
- 25 症例数が元々少なく参考になる治療成績がないのは問題
- 26 国レベルでの集約化で2～3の病院でよいのでは？
- 27 成績が上がりエビデンスも出やすくなる
- 28 散発診療はよくない、レベルが↑↓
- 29 成績向上につながる
- 30 患者が納得できる医療を提供できる、紹介先を探す苦労が減る
- 31 症例を集約化した方が治療の均一化につながり、治療成績向上につながると思われる
- 32 集約化した方が安定した治療を専門集団が行うことができるため
- 33 症例数が少ないと標準的な治療も十分に行えない、診療レベルの差が大きすぎる
- 34
  - 治療の集約と follow up は別の問題
  - 集約による一般診療能力の低下がおこれば集約化の意義が薄れる
  - 現状の医師研修制度からすると方向性が都市集中型へとさらに加速する恐れがある
- 35
  - 集約化のメリットもあるが、遠方による場合などのデメリットもある
  - どの規模まで集約化するかによるところがある（当院は南大阪での唯一の大学病院であり、脳外科・小児科・放射線腫瘍科が連携して集学治療が可能である）
- 36 集約化により小児科の充実が見込まれるため
- 37 症例数が少なく標準的な治療も確立されていない、センター化は必須である
- 38 小児がんの治療は集学的治療が不可欠であり、専門家と患者の集約はさげられない
- 39 まちまちの治療では、Pt.・Dr.とも不利益である
- 40 総論的には賛成です。患者家族の宿泊施設などの環境をすべて考えていない現状では進めません。家族特に親は自宅から近い施設を望んでいます。情報の集約化は必要ですが果たして施設としての集約化は日本の医療の現状にあっているかどうかは議論の余地があります
- 41 小児脳腫瘍は症例数の割には組織など多様性であるので、拠点病院での集約化した治療が望ましい
- 42 小児脳腫瘍は症例数が少ないので、集約化することにより治療を標準化できるから
- 43 拠点病院に集約した方が治療成績の向上につながると思う
- 44 低レベルの治療が減る
- 45 小児がんに対しては複数の科が関わり連携していかなければ治療ができないため、そのためにも集約化が必要と思われる

## 脳神経外科 小児固形腫瘍診療についてのご意見

- 46 •小児脳腫瘍は小児固形癌の中で最小頻度が高く死亡率の高い疾患であり、多くの病理組織が存在するため治療法の選択も難しい
- 現在小児脳腫瘍の症例は多くの施設に分散しており、すべての患者に高いレベルの治療が行えていないため、各地域で拠点病院に集約することが望ましい
- 47 症例が少ないため集約させた方がメリットが多い
- 48 家族の看病など患児だけの問題ではない
- 49 数の少ない小児脳腫瘍を分散させる意義がない
- 50 厚労省が主導するのは望ましくないから

放射線科 (送付：113施設、回答：76施設 回収率：67.2%)

(施設数)

1. 施設と診療体制について		1	2	3	4	5	6	その他	小計	無回答	総合計	
1	がん診療連携拠点病院の指定	1：国指定都道府県拠点、 2：国指定地域拠点 3：都道府県指定拠点 4：いずれでもない	22	22	17	9	0	0	0	70	6	76
2	小児の放射線治療は可能ですか	1：はい 2：いいえ	72	3	0	0	0	1	76	0	76	
3	ガンマナイフ		3	1	69	0	0	3	76	0	76	
4	サーバーナイフ	1：鎮静の必要な 小児にも可能 2：成人のみ 3：実施していない	3	2	69	0	0	2	76	0	76	
5	強度変調照射		24	28	22	0	0	2	76	0	76	
6	放射線治療専門医	1：専従、 2：診断と兼務、 3：非常勤	71	0	5	0	0	0	76	0	76	
7	専従医がおられる場合、何名でしょうか。	[ ]名	4	13	15	10	9	1	19	71	5	76
8	医学物理士		55	20	0	0	0	1	76	0	76	
9	放射線治療専門放射線技師	1：いる 2：いない	70	5	0	0	0	1	76	0	76	
10	鎮静が必要な場合、だれが鎮静処置を行っていますか。	1：放射線科医、 2：小児科医、 3：麻酔科医	0	59	4	0	0	13	76	0	76	
11	集学的診療体制で診療が行われていますか。		67	9	0	0	0	0	76	0	76	
12	小児がんを対象としたカンサーボードが行われていますか。	1：はい 2：いいえ	33	39	0	0	0	4	76	0	76	

2. 診療実績について

1. 年間の小児の放射線治療初症例(再発も含みますが、延べ数ではありません)の概数をお答えください。	a	造血幹細胞移植前処置としての全身照射	23	33	13	5	0	0	2	76	0	76
	b	脳腫瘍	10	47	11	5	3	0	0	76	0	76
	c	骨軟部腫瘍	22	48	5	0	0	0	1	76	0	76
	d	その他の固形がん	20	44	8	1	0	2	1	76	0	76
2		上記の合計は何例程度ですか。	7	19	22	10	5	10	3	76	0	76

3. 今後の小児がん放射線治療に対する方向について

1	今後積極的に症例を増やしていきたい。		27	45	0	0	0	0	4	76	0	76
2	現状維持でよい		52	18	0	0	0	0	6	76	0	76
3	今後、取り扱いをやめたい/取り扱う予定はない。	1：はい 2：いいえ	6	60	0	0	0	0	10	76	0	76
4	小児の放射線治療はできればやりたくない。		11	58	0	0	0	0	7	76	0	76
5	上記の理由		別紙に回答あり									
6	小児の放射線治療は集約化すべきとお考えでしょうか。	1：はい 2：いいえ	68	2	0	0	0	0	6	76	0	76
7	その理由		別紙に回答あり									

## 放射線科 小児がん放射線治療についてのご意見

### 問3-5. 今後の小児がん放射線治療に対する方向について

今後、取り扱いをやめたい/取り扱う予定はない理由

- 1 道内における小児腫瘍を今後陽子線も備える当院に集約していくべきだと考えるため
- 2 県立子ども病院にもクリニックがあるため
- 3 労力の割には安い医療費、添付の論文をご参照下さい  
論文： 日本国内の小児放射線治療の実態調査報告（日放腫会誌 18：29-33. 2006）
- 4 当院症例の年齢構成から現状維持でよい
- 5 症例と集約化すべきであるから
- 6 治療や家族との面談など成人とは異なり大変
- 7 時間的問題
- 8 3-7の件もあるが大学病院としてある程度せざるをえない
- 9 神奈川県子ども医療センターで小児がん治療を行ったが、1人あたりの時間がかかりすぎる
- 10 現状の設備（リニアック×2台）では患者数を増やす余裕がないため
- 11 慢性有害事象のリスクが高いため
- 12 •鎮静の難しさ・治療の効率の悪さ・技師の少ない病院では非常に厳しい  
•根治しても弊害も多く、第一選択とはならない
- 13 当大学小児科が積極的になっているので
- 14 小児に対し高精度放射線治療（陽子線）と集学的治療を提供できる国内でも限られた施設であるため
- 15 地域の中核病院としての責務として
- 16 装置1台のみの運用でなかなか小児症例への治療時間がとりにくい
- 17 PEDIATRIC ONCOLOGIST のいる病院で小児がんの治療をすべきである
- 18 小児腫瘍についての知識が少ない。年間数例しかないので勉強時間も確保できない
- 19 •対応すべきだと考えるが、2台のリニアックで1日100件以上の成人件数あり物理的に不可能な状況  
•時間帯で小児を優先することで成人の照射が夜間となることもあり、これは治療効果上も問題では  
•小児科の方で患者が多いのでできるだけ対応したい  
•放射線治療の成人症例が machine・man power 不足でこれ以上の対応は難しい
- 21 病院自体が15歳以上を対象にしている
- 22 本院は県内唯一の小児がんの集学的治療可能施設として集約化された経緯がある
- 23 ある程度の数を全国に配分して集約すべき
- 24 適応を適切に判断すれば、現在の数は発症数に対して妥当な数
- 25 適応のある患者にはもちろん治療します
- 26 小児専門病院ではないので最低限現状でOKと考えています
- 27 腫瘍専門の小児科医が不在
- 28 放射線治療が患児の治療・QOLの改善につながるものに関しては積極的に行っています
- 29 需要が一定のペースで見込まれるため
- 30 県の中核病院であるため



問3-7. 小児固形腫瘍診療の今後の診療体制について

小児の放射線治療を集約化にすべきか否か

- 1 症例数の母数自体少なく、また治療には集学的治療が必要とされるため
- 2 症例数が少ないため
- 3 治療機器の問題・フォローアップの問題
- 4 何とも言えない
- 5 症例数が少なく分散するのは危険である
- 6 成績向上のため
- 7 基本的治療ができる施設でないと小児がんは取り扱うべきでない
- 8 小児麻酔医を確保するため
- 9
  - 症例数が少なく特殊な注意点があることから、放射線治療としてはセンター化（集約化）が必須
  - 小児医療センターやこども病院などの形態になると、常勤の放射線治療医を配置するのは難しいので工夫が必要
- 10 全体の症例が少ない、成人と異なる知識・経験を要する
- 11 専門性、マンパワー
- 12 小児腫瘍は症例数も少なく放射線治療ばかりでなく小児医も経験を積むことができず、診療に習熟することが難しい。センター化が必須
- 13 専門スタッフがそろった組織化された施設で行った方が効率的だから
- 14 時間と多部門の人材と豊富な経験が必要であるため
- 15 放射線腫瘍専門医が小児病院には少ないため
- 16
  - 当院は現在常勤の放射線科医がいない
  - 技師が少ない病院では現状を維持するので精一杯である
  - 治療の質や件数を上げていくためには、集約化していくべきである
- 17
  - 放射線腫瘍科だけでは診療はできない、小児がんチームが必要
  - 小児がんにも必須となる陽子線治療を行っており、今後は国の小児がん拠点として貢献したい
- 18 眠剤を使わず照射など小児の放射線治療には重要なノウハウがある。集約してそれを有効に用いるべき
- 19 症例数が少なく成人とは異なる点が多くて多いため、集約化し治療に習熟すべき
- 20 病態的にも技術的にも専門性が高い
- 21 小児の放射線治療特有の照射技術や診療を習熟し水準を保つためには、集約化が有効であるため
- 22 ノウハウがある
- 23 希少疾患なので少数の施設で経験を積むべきだと考えます
- 24 まれな症例も多く長期フォロー可能な病院がのぞましいと思う
- 25 問3-5のためには集約化が必要
- 26 知識と経験のあるDr. が治療すべきである
- 27 採算性を非常に問題視される現状では分散することでかえって受け入れ件数が少なくなってしまうことが懸念される。公的資金を投入して専門化した施設で必要なデバイスもそろえる方がよい
- 28
  - 毎回治療方針を決める際迷うことが多く、ほか施設の医師にも聞いたりしながら取り組んでいる
  - 経験豊富なスタッフを集めて集約化した方がいいと思う

## 放射線科 小児がん放射線治療についてのご意見

- 29
  - 小児科を中心とした腫瘍チームに放射線治療のスタッフ・機器を揃えて安全な治療となる
  - 特に放射線側の対応機器・スタッフ不足が問題
  - 集約化の難敵は小児の治療は家族も含めた治療であるため移動が難しく、ある程度地域毎にすべて揃った経験の多い施設が望まれる
- 30 症例数が少なく経験を積みにくい→分散すると適切な治療が行われにくくなる
- 31 まれな腫瘍は集約化した方がよいと考えるが、患者の移動の問題あり
- 32 小児外科・小児がん専門の小児科医と小児がん治療に積極的な放射線治療医が必要
- 33 各病院の経験症例数が少ないと治療の向上は望めない
- 34 十分なマンパワーが必要な治療のため
- 35 小児科・放射線治療科の両者の熱意に依存する
- 36 小児がんの放射線治療は症例が少なく専門的な知識や技術が必要であり、集約化すべきだと考える
- 37 症例数と比較して専門の知識や技術を有する治療医が少ないように思うので
- 38 腫瘍専門の小児科医・放射線治療医が不足しているため
- 39 陽子線治療・強度変調治療のセンター化
- 40 ある程度なれた施設での施行が望ましいが、小児科医と患児・家族の関係の方が大切
- 41
  - より専門性の高い施設で行った方が安全であるから
  - 地理的条件で治療機会を失うことのないように極端な集約化は望ましくない
- 42 専門的治療が必要なため全体の症例数が少ないため

アンケートにご協力頂いた施設

264施設 順不同

NO.	施設名	都道府県	NO.	施設名	都道府県
1	特定医療法人北楡会札幌北楡病院	北海道	26	東京慈恵会医科大学附属病院	東京都
2	独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター	北海道	27	国立大学法人 東京大学医科学研究所附属病院	東京都
3	北海道立こども総合医療・療育センター	北海道	28	順天堂大学医学部附属 順天堂医院	東京都
4	日鋼記念病院	北海道	29	東京医科歯科大学医学部附属病院	東京都
5	札幌医科大学附属病院	北海道	30	日本医科大学付属病院	東京都
6	国立大学法人 北海道大学病院	北海道	31	国立大学法人 東京大学医学部附属病院	東京都
7	旭川医科大学付属病院	北海道	32	がん・感染症センター 都立駒込病院	東京都
8	釧路市立釧路総合病院	北海道	33	東京女子医科大学東医療センター	東京都
9	国立大学法人 秋田大学医学部附属病院	秋田県	34	がん研究会有明病院	東京都
10	中通総合病院	秋田県	35	NTT東日本関東病院	東京都
11	岩手県立中央病院	岩手県	36	昭和大学病院	東京都
12	岩手医科大学附属病院	岩手県	37	東邦大学医療センター大森病院	東京都
13	青森県立中央病院	青森県	38	日本赤十字社医療センター	東京都
14	国立病院機構弘前病院	青森県	39	国立病院機構東京医療センター	東京都
15	弘前大学医学部附属病院	青森県	40	東邦大学医療センター大橋病院	東京都
16	公立大学法人 福島県立医科大学附属病院	福島県	41	独立行政法人 国立成育医療研究センター	東京都
17	財)太田総合病院附属太田西ノ内病院	福島県	42	東京医科大学病院	東京都
18	国立大学法人 東北大学病院	宮城県	43	慶應義塾大学病院	東京都
19	仙台赤十字病院	宮城県	44	東京女子医科大学病院	東京都
20	仙台市立病院	宮城県	45	国立国際医療研究センター病院	東京都
21	地方独立行政法人 宮城県立こども病院	宮城県	46	社会保険中央総合病院	東京都
22	山形県立中央病院	山形県	47	帝京大学医学部附属病院	東京都
23	国立大学法人 山形大学医学部附属病院	山形県	48	日本大学医学部附属板橋病院	東京都
24	独立行政法人国立がん研究センター中央病院	東京都	49	順天堂大学附属練馬病院	東京都
25	聖路加国際病院	東京都	50	武蔵野赤十字病院	東京都

アンケートにご協力頂いた施設

264施設 順不同

NO.	施設名	都道府県	NO.	施設名	都道府県
51	杏林大学医学部付属病院	東京都	76	東京女子医科大学八千代医療センター	千葉県
52	東京都立小児総合医療センター	東京都	77	おおたかの森病院	千葉県
53	公立昭和病院	東京都	78	順天堂大学医学部附属浦安病院	千葉県
54	国家公務員共済組合連合会 立川病院	東京都	79	成田赤十字病院	千葉県
55	東京医科大学八王子医療センター	東京都	80	総合病院国保旭中央病院	千葉県
56	日本医大多摩永山病院	東京都	81	千葉県循環器病センター	千葉県
57	日本医科大学武蔵小杉病院	神奈川県	82	君津中央病院	千葉県
58	帝京大学溝口病院	神奈川県	83	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院	千葉県
59	聖マリアンナ医科大学病院	神奈川県	84	東京ベイ・浦安市川医療センター	千葉県
60	昭和大学横浜市北部病院こどもセンター	神奈川県	85	帝京大学ちば総合医療センター	千葉県
61	昭和大学藤が丘病院	神奈川県	86	茨城県厚生農業協同組合連合会総合病院 土浦協同病院・茨城県地域がんセンター	茨城県
62	(公)横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター	神奈川県	87	国立大学法人 筑波大学附属病院	茨城県
63	神奈川県立こども医療センター	神奈川県	88	茨城県厚生農業協同組合連合会 茨城西南医療センター病院	茨城県
64	済生会横浜市南部病院	神奈川県	89	茨城県立こども病院	茨城県
65	公立大学法人 横浜市立大学附属病院	神奈川県	90	栃木がんセンター	栃木県
66	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	神奈川県	91	獨協医科大学病院	栃木県
67	北里大学病院	神奈川県	92	自治医科大学とちぎ子ども医療センター 外科	栃木県
68	東海大学医学部付属病院	神奈川県	93	自治医科大学附属病院	栃木県
69	国立大学法人 千葉大学医学部附属病院	千葉県	94	自治医科大学さいたま医療センター	埼玉県
70	千葉県がんセンター	千葉県	95	川口市立医療センター	埼玉県
71	千葉県立こども病院	千葉県	96	さいたま市立病院	埼玉県
72	流山総合病院	千葉県	97	埼玉県立小児医療センター	埼玉県
73	日本医科大学千葉北総病院	千葉県	98	獨協医科大学越谷病院	埼玉県
74	国保松戸市立病院	千葉県	99	埼玉医科大学病院	埼玉県
75	東京歯科大学市川総合病院	千葉県	100	埼玉医科大学国際医療センター	埼玉県

アンケートにご協力頂いた施設

264施設 順不同

NO.	施設名	都道府県	NO.	施設名	都道府県
101	埼玉医科大学総合医療センター	埼玉県	126	愛知県がんセンター愛知病院	愛知県
102	防衛医科大学校病院	埼玉県	127	愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院	愛知県
103	行田総合病院	埼玉県	128	名鉄病院	愛知県
104	埼玉県立がんセンター	埼玉県	129	名古屋第一赤十字病院	愛知県
105	深谷赤十字病院	埼玉県	130	独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター	愛知県
106	日本赤十字社 前橋赤十字病院	群馬県	131	愛知県がんセンター	愛知県
107	群馬大学医学部附属病院	群馬県	132	名古屋市立東部医療センター	愛知県
108	桐生厚生総合病院	群馬県	133	名古屋大学医学部附属病院	愛知県
109	群馬県立小児医療センター	群馬県	134	名古屋第二赤十字病院	愛知県
110	長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院	長野県	135	名古屋市立大学病院	愛知県
111	国立大学法人 信州大学医学部附属病院	長野県	136	藤田保健衛生大学病院	愛知県
112	長野県立病院機構 長野県立こども病院	長野県	137	あいち小児保健医療総合センター	愛知県
113	山梨大学医学部附属病院	山梨県	138	愛知県心身障害者コロニー中央病院	愛知県
114	長岡赤十字病院	新潟県	139	愛知医科大学病院	愛知県
115	新潟県立中央病院	新潟県	140	小牧市民病院	愛知県
116	新潟市民病院	新潟県	141	岐阜市民病院	岐阜県
117	新潟大学歯学総合病院	新潟県	142	地方独立行政法人 岐阜県総合医療センター	岐阜県
118	新潟県立がんセンター新潟病院	新潟県	143	国立大学法人 岐阜大学医学部附属病院	岐阜県
119	静岡県立静岡がんセンター	静岡県	144	社会医療法人厚生会 木沢記念病院	岐阜県
120	地方独立行政法人 静岡県立こども病院	静岡県	145	国立病院機構 三重病院	三重県
121	焼津市立総合病院	静岡県	146	国立大学法人 三重大学医学部附属病院	三重県
122	社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院 聖隷浜松病院	静岡県	147	滋賀医科大学医学部附属病院	滋賀県
123	浜松医科大学医学部附属病院	静岡県	148	大津赤十字病院	滋賀県
124	磐田市立総合病院	静岡県	149	近江八幡市立総合医療センター	滋賀県
125	豊橋市民病院	愛知県	150	財団法人田附興風会 北野病院	大阪府

アンケートにご協力頂いた施設

264施設 順不同

NO.	施設名	都道府県	NO.	施設名	都道府県
151	淀川キリスト教病院	大阪府	176	独立行政法人国立病院機構 舞鶴医療センター	京都府
152	大阪市立総合医療センター	大阪府	177	近畿大学医学部奈良病院	奈良県
153	中野こども病院	大阪府	178	国立病院機構奈良医療センター	奈良県
154	(地)大阪府立病院機構 大阪府立成人病センター	大阪府	179	奈良県立奈良病院	奈良県
155	独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター	大阪府	180	天理よろづ相談所病院	奈良県
156	大阪赤十字病院	大阪府	181	奈良県立医科大学附属病院	奈良県
157	公立大学法人 大阪市立大学医学部附属病院	大阪府	182	奈良県総合リハビリテーションセンター	奈良県
158	豊中市立豊中病院	大阪府	183	日本赤十字社和歌山医療センター	和歌山県
159	大阪大学医学部附属病院	大阪府	184	和歌山県立医科大学附属病院	和歌山県
160	友誼会総合病院	大阪府	185	独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センター	和歌山県
161	医療法人愛仁会高槻病院	大阪府	186	国立大学法人 神戸大学医学部附属病院	兵庫県
162	大阪医科大学附属病院	大阪府	187	神戸市立医療センター中央市民病院	兵庫県
163	松下記念病院	大阪府	188	西神戸医療センター	兵庫県
164	関西医科大学附属枚方病院	大阪府	189	兵庫県立こども病院	兵庫県
165	近畿大学医学部附属病院	大阪府	190	兵庫県立塚口病院	兵庫県
166	近畿大学医学部堺病院	大阪府	191	兵庫医科大学病院	兵庫県
167	独立行政法人労働者健康福祉機構 大阪労災病院	大阪府	192	姫路赤十字病院	兵庫県
168	大阪府立母子保健総合医療センター	大阪府	193	兵庫県立がんセンター	兵庫県
169	地方独立行政法人 りんくう総合医療センター	大阪府	194	明石市立市民病院	兵庫県
170	京都府立医科大学附属病院	京都府	195	加古川市立市民病院	兵庫県
171	京都市立病院	京都府	196	福井大学医学部附属病院	福井県
172	京都第一赤十字病院	京都府	197	福井赤十字病院	福井県
173	国立大学法人 京都大学医学部附属病院	京都府	198	金沢医科大学病院	石川県
174	宇治徳洲会病院	京都府	199	石川県立中央病院	石川県
175	京都桂病院	京都府	200	国立大学法人 金沢大学附属病院	石川県

アンケートにご協力頂いた施設

264施設 順不同

NO.	施設名	都道府県	NO.	施設名	都道府県
201	加賀市民病院	石川県	226	独立行政法人国立病院機構 香川小児病院	香川県
202	国立大学法人 富山大学附属病院	富山県	227	稲山病院	徳島県
203	富山県立中央病院	富山県	228	国立大学法人 徳島大学病院	徳島県
204	砺波市立砺波総合病院	富山県	229	徳島赤十字病院	徳島県
205	鳥取県立中央病院	鳥取県	230	高知赤十字病院	高知県
206	鳥取県立厚生病院	鳥取県	231	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター	高知県
207	国立大学法人 鳥取大学医学部附属病院	鳥取県	232	国立大学法人 高知大学医学部附属病院	高知県
208	国立病院機構米子医療センター	鳥取県	233	愛媛県立中央病院	愛媛県
209	国立大学法人 島根大学医学部附属病院	島根県	234	南松山病院	愛媛県
210	国立大学法人 岡山大学病院	岡山県	235	国立病院機構 四国がんセンター	愛媛県
211	川崎医科大学附属病院	岡山県	236	愛媛大学医学部附属病院	愛媛県
212	独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター	岡山県	237	労働者健康福祉機構 九州労災病院	福岡県
213	財団法人 倉敷中央病院	岡山県	238	北九州市立医療センター	福岡県
214	JA尾道総合病院	広島県	239	北九州市立八幡病院小児救急センター	福岡県
215	広島赤十字・原爆病院	広島県	240	産業医科大学病院	福岡県
216	広島市立広島市民病院	広島県	241	福岡市立こども病院・感染症センター	福岡県
217	広島県立広島病院	広島県	242	国立病院 九州医療センター	福岡県
218	国立大学法人 広島大学病院	広島県	243	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	福岡県
219	国立病院機構呉医療センター 中国がんセンター	広島県	244	福岡市立病院機構 福岡市民病院	福岡県
220	独立行政法人国立病院機構 岩国医療センター	山口県	245	国立大学法人 九州大学病院	福岡県
221	下関市立中央病院	山口県	246	福岡大学病院	福岡県
222	国立病院機構関門医療センター	山口県	247	久留米大学病院	福岡県
223	国立大学法人 山口大学医学部附属病院	山口県	248	久留米大学 放射線治療センター	福岡県
224	香川県立中央病院	香川県	249	独立行政法人佐賀県立病院好生館	佐賀県
225	国立大学法人 香川大学医学部附属病院	香川県	250	国立大学法人 佐賀大学医学部附属病院	佐賀県

アンケートにご協力頂いた施設

264施設 順不同

NO.	施設名	都道府県	NO.	施設名	都道府県
251	国立大学法人 長崎大学医学部歯学部付属病院	長崎県			
252	佐世保市立総合病院	長崎県			
253	独立行政法人国立病院機構 熊本医療センター	熊本県			
254	国立大学法人 熊本大学医学部附属病院	熊本県			
255	熊本赤十字病院	熊本県			
256	熊本市立熊本市民病院	熊本県			
257	熊本赤十字病院	熊本県			
258	大分県立病院	大分県			
259	国立大学法人 大分大学医学部附属病院	大分県			
260	国立大学法人 宮崎大学医学部附属病院	宮崎県			
261	国立大学法人 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院	鹿児島県			
262	鹿児島市立病院	鹿児島県			
263	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	沖縄県			
264	国立大学法人 琉球大学医学部附属病院	沖縄県			



